

1 経営の基盤

- ◆公教育としての学校
- ◆夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要な力を育成する学校
- ◆児童生徒の実態を活かし、学校、家庭、地域で共育を推進する学校
- ◆社会の現状や2030年以降を踏まえた教育活動を推進する学校



- ① 教育基本法をはじめとする関係諸法規、中学校学習指導要領、福岡県教育施策・太宰府市教育施策に則った教育を行う。
- ② 「ふくおか未来人材育成ビジョン～鍛ほめ福岡メソッド」の日常的な実践をめざす。
- ③ 自らよりよい社会を創り、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるための資質・能力を育む。
- ④ 基礎的・基本的な知識・技能の習得を基盤とし、思考力・判断力・表現力の育成を図り、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性を涵養する。
- ⑤ 我が国やふるさと太宰府の文化と伝統を尊重しながら、グローバルな国際社会を生きる資質を養う。
- ⑥ 太宰府中学校区の学校・家庭・地域が一体となって生徒を育成するコミュニティ・スクールを推進し、互いの双方向の関係構築に努め、社会に開かれた教育課程を創造する。
- ⑦ 学校力の向上をめざし、教育課程の編成、実施、評価、改善を図るPDCAサイクルを確立させ、カリキュラム・マネジメントの推進を通して、社会に開かれ、社会を開く教育課程を創造する。

2 本校の教育目標

(1) 太宰府中学校の教育目標

＜学校の教育目標＞ 学習が輝く、心が輝く、自分が輝く生徒の育成

【校訓】 「創造」(学習が輝く)「友愛」(心が輝く)「勤労」(自分が輝く)

＜令和2年度太宰府中学校教育推進テーマ＞

夢と感動をはぐくみ、社会に開かれ、社会を開く教育課程の創造
—鍛えて、ほめて、伸ばす『鍛ほめ福岡メソッド』の実践—

- ① 学習が輝く : 自ら考え判断し、対話的な学びを通して課題を解決しながら自己の伸びを実感する
 - ② 心が輝く : 自他を大切にしながら思いやりの心を育み、実践することが出来る
 - ③ 自分が輝く : 夢や目標に向かって、何事もどんな困難にも、失敗を恐れずにチャレンジする
- (2) めざす生徒像
- ① 意欲的に学び、「わかった、できた」と自己の伸びを実感しながら学力を向上させる生徒【学力】
 - ② 自他を大切に、思いやりの心を行動で洗わすことが出来る生徒【心力】
 - ③ 夢や目標に向かって、どんな困難に対しても、失敗を恐れずにチャレンジし続ける生徒【根性】
- (3) めざす学校像
- ① 夢と希望に溢れる学校 : 笑顔を絶やさず、何事にもチャレンジし続ける
 - ② 思いやり溢れる学校 : 体験と対話を活動の基盤とする
 - ③ おらが学校 : 生徒、家庭、地域を愛し、愛される

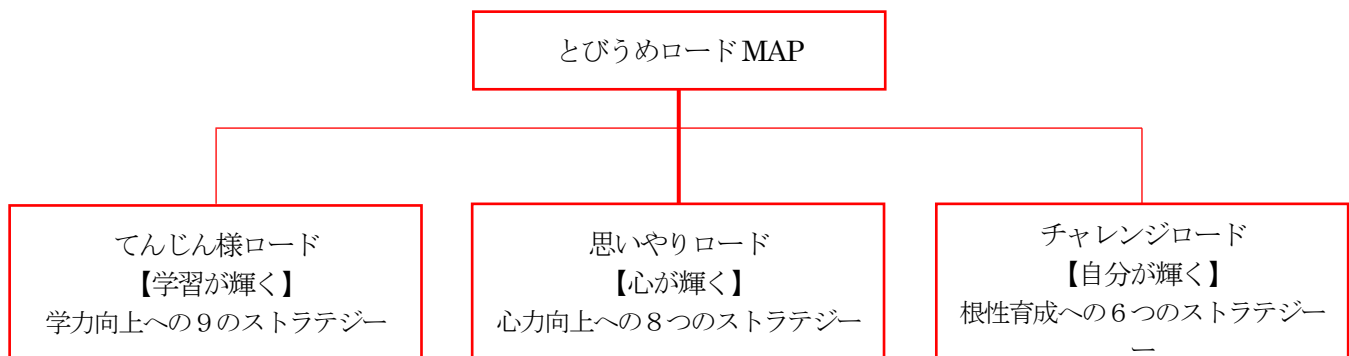
- (4) めざす教師像
 - ①教育への情熱に満ちあふれた教師
 - ②積極的生徒指導を推進する教師（「鍛ほめ福岡メソッド」を実践する教師）
 - ③教育公務員として自覚と責任をもつ教師
- (5) めざす授業像
 - ① 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が明確な授業実践（主体的・対話的で深い学びの実践）
 - ② 生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養をめざす授業実践
- (6) めざす家庭像
 - ① 学校と協働しながら基本的な生活習慣を身に付けさせる家庭
 - ② 子どもと日常的に対話ができる家庭
 - ③ 学校、地域と協働して具体的共育を推進する家庭
- (7) めざす地域像
 - ① 学校における取組みの方向性や課題に関心を持ち、協働して共育活動を推進する地域
 - ② 「地域は学校の応援団、学校は地域の応援団」、win winの関係づくりを推進する地域
 - ④ 学校に対して、厳しく、優しい地域

3 本校経営の方針

- (1) 前年度踏襲主義の打破と、経験主義から結果主義へ転換する学校経営の実施。
- (2) コミュニティ・スクールとして、小学校、家庭、地域との連携・協力しながら社会に開かれた教育課程を創造し、学校・家庭・地域での共育を推進し、生徒一人一人が確実に伸びる教育活動を実践する。
- (3) 新学習指導要領の趣旨に基づき、調和のとれた教育課程の編成・実施・評価を行い、PDCAサイクルを確立させながら、カリキュラム・マネジメントを推進する。
- (4) 全教育活動を通して、キャリア教育を推進し、基礎的、汎用的能力の育成を図る。
- (5) 教育専門職としての情熱、専門的力量、総合的な人間力を向上させる研修の充実と人材育成を推進する。
- (6) 経営の組織化と効率化をめざし、協働体制による学校経営の推進を図る。

4 令和2年度大宰府中学校教育推進テーマ『夢と感動をはぐくみ、社会に開かれ、社会を開く教育課程の創造』を推進させるための方針

学校教育目標、本校経営の方針並びに令和2年度の教育推進テーマである「夢と感動をはぐくみ、社会に開かれ、社会を開く教育課程の創造—鍛えて、ほめて、伸ばす「鍛ほめ福岡メソッド」の実践—」を具現化させるために、昨年に引き続き、『とびうめロードマップ』を策定した。この『とびうめロードマップ』に、学校教育目標を達成するために、『てんじん様ロード（学力）』、『思いやりロード（心力）』、『チャレンジロード（根性）』の3つのロードを位置づけ、3つのロードにおいて、目標達成に向けての戦略（戦略・重点項目）とタクティクス（戦術・方策）を明らかにさせながら実践を図っていくものである。



【てんじん様ロード＜学習が輝く＞】

【戦略1：『太中メソッド』の定着をめざす】＜課題対応能力の育成＞研究推進委員会

生徒の主體的な学びを促すために、授業において『めあての提示』『学習内容、学習方法の見通しを示す』『個別思考の場を位置づける』『対話的な学びの場を位置づける』『振り返りの場を位置づける』の5つの段階を必ず位置づけ50分の授業を完結させる『太中メソッド』の確実な定着を図る。また、研究推進委員会において、それぞれの場で効果的な方法を明らかにさせ、情報共有を図りながら授業改善を推進させる。

【戦略2：『授業診断』を実施し、授業改善を推進する】研究推進委員会

全教師が年間3回の『授業診断』を受け、『ミニ授業整理会』を通して、授業改善課題の明確化を図る。授業診断は、研究推進委員会が実施し、『ミニ授業整理会』には管理職も参加して指導助言を行う。

【戦略3：『電子黒板』を活用した授業を全教師で年一回実施する】研究推進委員会

『電子黒板』を活用した授業実践を通して、来たるべき授業のICT化への準備段階とする。研推で授業スケジュールを策定し、授業公開形式で実施する。

【戦略4：各種テスト結果の公表と分析の場を位置づける】管理職 研究推進委員会

各種テスト結果（標準得点・地区内、市内での相対的順位）を公表し、校内研において、結果分析並びに次のテストに向けた目標設定を行う。

【戦略5：定期考査問題の改善を図り、思考力、判断力、表現力の育成をめざす】＜課題対応能力の育成＞教科部

定期考査問題に、思考力、判断力、表現力を問う問題の割合を増やし、授業改善上の課題を明らかにする。教務主幹が事前に出题する問題を点検し各教師へ指導助言を行う。特に3年生については、全国の高校入試問題データを共有フォルダ内に置き、いつでも参照出来るようにする。

【戦略6：『朝学』の全校実施】＜基礎的基本的な知識、技能の習得＞学年部

現状の朝自習一週末課題一週テストのサイクルの形骸化を一掃させ、生徒にとって効果的なものになっているかを検証しながら、内容の改善を図る。

【戦略7：『MICHIZANEノート』の活用】＜自己理解・自己管理能力＞研究推進委員会

現行の『MICHIZANEシート』を再編集して改善を図り、学びの確実な振り返りと自学ノートの役割としての機能を充実させる。生徒は、毎日の帰りの会において学びの振り返りと家庭学習計画を立てる。

【戦略8：『10daysTry』『とびうめ学習』『夜の公民館学習』を推進する】教育課程部 研究推進委員会

学校と家庭、地域が連携し、定期考査前に、学習計画実施を記録させる10daysTryを実施し計画的な家庭学習を促していく。また、放課後に、大学生を指導者として招聘して『とびうめ学習』を実施し学習補充を行う。さらに、地域が主体となって『夜の公民館学習』を定期考査前3日間実施し、生徒の学力補充を行う。

【戦略9：『単元テスト』の計画的な実施】＜基礎的基本的な知識、技能の習得＞各教科

各教科で授業における『レディネステスト』や『単元テスト』を実施し生徒の学力評価に生かす。日常的な授業と評価の一体化を図る。また、テストを定期テスト以外に積極実施することを通して、生徒の学ぶ意欲の向上につなげる。

【思いやりロード＜心が輝く＞】

【戦略1：SEL-8Sを実践し社会性の育成をめざす】＜人間関係形成・社会形成能力＞学年部

年間を通して人間関係能力、社会的能力の向上をめざし『SEL-8S』を実践する。年度当初に自己評定（第1回）を実施し、年間8回程度のエクササイズを行う。年度末に自己評定（第2回）を実施し生徒の変容を明らかに市改善の方策を明確にさせる。また、第1回の自己評定結果は、生徒の実態として学級担任や学年で共通理解を図りながら生徒の指導に活かしていく。

【戦略2：学級活動の時間の充実をめざす】＜人間関係形成・社会形成能力＞＜自己理解・自己管理能力＞学年部

3つの学習内容の計画的な実施を推進するが、特に学習内容1（学級生活上の諸問題の解決）と学習内容3（進路）を重点項目として年間を通して実施する。また、事後の活動を重視し学びの振り返りを確実にやっていく。

【戦略3：道徳の時間を改善し、評価を実施する】<人間関係形成・社会形成能力><自己理解・自己管理能力>学年部

自我関与を図る授業実践（道徳的価値の主體的自覚を図る場面の多用）を通して、『自分ならどうするか』、『この行為をどう思うか』等の発問を重視し自分の考えを明確にもつ授業をめざす。また、自分の考えを他者と議論しながら考えを深める学習形態の在り方を究明する。また、評価の実施について、生徒のよさを確実に評価する。

【戦略4：『帰りの会』の充実をめざす】<人間関係形成・社会形成能力>学年部

毎日実施する『帰りの会』について見直しを図り『伝達から交わりの場』『振り返りと評価の場』『明日への意欲高揚』の3つが網羅された運営を図る。短い時間の中でどのようなプログラムが効果的であるか情報共有し実践につなげていく。

【戦略5：教室環境整備を推進する】<自己理解・自己管理能力>学年部

特別支援教育の視点を取り入れた教室環境整備を実施する。構造化、視覚化を中心に前面掲示は精選した掲示物（時程表・校訓・学級目標・授業のルール等）を掲示し、背面掲示には学級の個性や個人の目標、班分担表、学級だより等を掲示する。また、掲示物については年間を通して計画的な学級掲示を行う。

【戦略6：生徒会活動の充実】<人間関係形成・社会形成能力>生徒会

生徒会活動の中に計画的に『思いやり』をテーマにした活動を仕組む。集会等においても、『思いやりの大切さ』を発表する場を位置づけていく。

【戦略7：地域貢献の充実】<人間関係形成・社会形成能力><キャリアプランニング能力>教育課程部

学校・家庭・地域との『共育』推進を図る一環として、『お世話になった地域への恩返し』として、積極的な地域貢献活動を実施する。各自治会会長との地域集会を行い、その中で地域からの協力要請を受け、生徒が活動を行っていく。主に、夏祭り支援、クリーンデー、リカバリー大作戦（資源回収）、天満宮行事（鬼すべ）、マンデー挨拶（五条駅）等を行う。また、昨年度から実践している総合的な学習の時間『おもてなしプロジェクト』の充実深化をめざす。『とびうめタイム』の開設講座の中のふるさと太宰府を探求する講座の新設をめざす。

【戦略8：学校行事の充実】<人間関係形成・社会形成能力>教育課程部

年間の学校行事や実行委員会の見直しを行い、生徒の直接体験型、協力協働型の行事を重視する。また、行事後の事後の活動を確実に実施し、行事の振り返り（成果と課題）を通して日常生活の向上につながる学校行事をめざす。

【チャレンジロード<自分が輝く>】

【戦略1：太宰府中『失敗学』の確立と実践】<自己理解・自己管理能力><キャリアプランニング能力>教育課程部

『成功の反対は失敗ではない。成功の反対は、なにもしないこと』をスローガンとして、失敗を恐れず何事にもチャレンジする生徒の育成を図る。また、月2回『朝の失敗学講座』を実施し、失敗から学んだことや失敗した時の対処の方法等を指導する。さらに『全校道徳』を実施し、生徒全員で失敗について考え議論を深める場とする。

【戦略2：生徒の体力向上】<課題対応能力>体育科

体育の授業改善を推進させ、『目標設定－実践－教え合い－評価－伸びの実感』のサイクルでの授業実践を構築する。また、日常の体育の授業において生徒の『元気』が発揮される授業実践を行う。

【戦略3：部活動充実のための検討】<課題対応能力>教育課程部 生徒指導部

太宰府市部活動基本方針に基づき、部活動の効果的運営の在り方について検討する。（外部コーチの積極的招聘）部活動休息日の設定については柔軟に対応するが、部活動年間計画に基づき計画的に位置づける。

【戦略4：ドリカム講座の開講】<キャリアプランニング能力>教育課程部

年間3回、外部講師を招聘し夢や目標をもって生きることの大切さを伝える機会とする。本年度は、スポーツ分野、文化分野等で活躍されている方々の招聘をめざす。

【戦略5：MICHIZANE賞の制定】<自己理解・自己管理能力>教育課程部

生徒の日常の努力を学校として評価する場とする。良い結果ばかりではなく、結果までの過程についても評価の対象とする。9つの表彰部門（学力向上・学力の伸び・ユーモア・掃除大臣・思いやり・家庭学習・地域貢献・特別・皆勤）を設定し全生徒の投票と教師の推薦で決定する。

【戦略6：真冬の耐寒歩行】＜人間関係形成・社会形成能力＞教育課程部

C Sの共育事業として、学校・家庭・地域が一体となって2月に『真冬の耐寒歩行』を実施する。参加希望生徒を募集し、約20kmのコースを歩く活動である。交通整理は地域が担当し、帰着後に振る料理は、PTAが主体となって担当する。生徒が、仲間と励まし合いながら完歩をめざす活動として、困難を乗り越える直接体験の場とする。

【社会に開かれた教育課程の実現に向けたコミュニティ・スクール推進事項】

【コミュニティ・スクールを通じた共育推進】＜双方向の共育推進＞教育課程部

○地域との『共育』

本年度から、学校運営協議会の下部組織として『地域学校協働本部（かがやき隊）』を組織して、実働部隊として以下の活動推進を図る。（構成メンバー：本部長（小中親父の会会長）、PTA本部、地域委員、学校）

- 夏祭り支援
- 夜間パトロール支援
- 学校行事支援（体育祭、文化祭等）
- 資源回収支援
- 愛校作業
- 真冬の耐寒歩行
- おもプロ関係支援活動

○小中学校間での『共育』活動の目標

＜『3つのストリートプラン』の着実な実践＞

- ・目的→中学生と6年生の交流を通して中学生としての自覚と誇りを、6年生は中学生への憧れと意欲を。
- ・大宰府中学校『3つのストリートプラン』
- ・兼務教員の派遣、バックヤードツアー等の実施（学びのストリート）
- ・ボランティア交流、児童生徒交流、クリーンアップ作戦等の実施（思いやりストリート）
- ・ドリカム講座等の実施（思いやりストリート）

○家庭との『共育』

- PTAとの積極的な情報連携、行動連携
- 3年生激励会
- HPでの学校情報発信
- 10DaysTry

5 その他学校経営の推進を図るための具体的な方策

【不祥事防止、撲滅への取組概要】

- ① 年度当初において不祥事の概要等についての説明指示の実施（不祥事の種類・懲戒処分の指針）
- ② 日常的な場面での不祥事防止に向けた啓発の実施
- ③ 面談時において不祥事防止に関しての個別指導の実施
- ④ リスクマネジメントとクライシスマネジメントの体制整備
- ⑤ 若年教師、講師を対象とした校内研修の実施
- ⑥ 年間を通して計画的な『不祥事防止研修』の実施（4月・7月・12月の実施予定）

(1) 生徒の安全管理に関する指導乃推進 教育課程部 保健安全指導部 生徒指導部

- ア 食に関する指導を計画的に実施し、食育の推進を図る。
- ウ 非行防止学習（薬物乱用・性の逸脱行為・ネットによる誹謗中傷等）の確実な実施を通して、生徒自身の自己管理能力の向上をめざす。
- エ 「ノー部活デー」を実施し、練習時間の適正化に努め適正な部活動運営に努める。（毎週月曜日と土日のいずれかを休息日とする）
- オ 日常的な手洗い、教室換気等による伝染病予防の徹底

(2) いじめや不登校等への対応 生徒指導部

- ア いじめ、不登校、非行等の早期発見、早期指導に努め、組織的な連携のもとに積極的な生徒指導を推進する。（学年部一生徒指導部会の機能化、生徒指導部会での指導方針の決定）
- イ 生活アンケート、いじめアンケートの確実な実施と日常的な生徒状況の把握と教師間連携を充実させる。
- ウ ST、SSW、通級教室、教育支援センターとの情報連携、行動連携を推進する

(3) 特別支援教育の推進 生徒指導部特別支援教育推進班

- ア 個別の支援計画、指導計画に基づいた適切な指導及び支援を学校全体で実践する。
- イ 保護者との連携を重視し、生徒の自立と社会参加に向けた共育を実践する
- ウ 障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの構築にむけた体制づくりに着手する。
- エ 一般研修において特別支援教育に関する研修を実施し、全教職員が特別支援教育への理解と指導のための技能の習得をめざす。

(4) キャリア教育 学年部

- ア 「夢」の育成と勤労観、職業観の向上を図る。
- イ 体験活動と振り返り活動の充実を通して基礎的・汎用的能力の向上をめざす。
- ウ 生徒会活動や異学年集団、地域との交流を通して、望ましい人間関係づくりを築く態度を育成する。

- エ 「職場体験活動」「ドリカム講座」の充実を図り、直接体験学習を通して勤労観、職業観の向上をめざし、夢や目標をもって生きることの大切さを体感させる。
- オ 地域の多くの方々からの評価を受けながら、生徒の自己有用感の高揚を図る。
- カ 『3つのストリートプラン』等の実践を通して、小学生へのお世話を通して自己有能感の高揚を図る。

(5) 学校・家庭・地域の連携強化

- ア 学校HPやメールを充実させ情報連携を図る
- イ PTAと連携して正しいスマートフォンの利用等について積極的な啓発を行う。
- ウ 学校、家庭、地域で一体となって『共育』を推進し、生徒の自己有用感の向上をめざす。
- エ 地域貢献活動を実践し、生徒の自己有用感の高揚を図る（お世話になった地域への恩返しの実践）

(6) 多様な教育ニーズへの対応と教育支援

- ア 小中連携の具体的推進を図り、9年間の学びに対する結果責任を果たす
 - ・小学校で身につけた学力の維持、向上させる
 - ・中学校は躊躇することなく、育成したい学力について小学校へ説明を実施する
 - ・太宰府市で実施される新しい標準着用に向けた情報提供を積極的に実施する（制服の機能面・費用面・LGBTへの理解等に関する情報）

(7) 教員の指導力・学校の組織力の向上

<カリキュラム・マネジメントによる研修体制の整備と人材育成>

- ア 日常的授業診断を通じた、日常的授業研修の実施と検証を行い、教師の実践的指導力の向上をめざす。
- イ 主体的、対話的、深い学びを授業改善の視点に据えた研修推進と具体的な実践を図る。
- ウ 夏期休業中の集中研修の実施による確実な教師力の向上（一般研修の充実）
- エ 「だざいふ道場」を開講し、若手教師の実践的指導力の向上をめざす。

<経営の組織化と効率化（業務改善）と評価計画>

- ア 1・2年部統合による組織運営の機能化を図る
- イ 『学力アッププロジェクト』によるR-V-P-D-C-Aサイクルによる学力分析と学力向上の具現化
- ウ 『生徒支援部』による積極的生徒指導体制の確立と運営（生徒理解の視点に立った教師の姿勢態度の高揚）
- エ 『運営委員会』－『職員会議』－『分掌会議』のライン構築
- オ 諸会議時間の短縮化を図り、分掌会議の充実を図る
- カ 学校評価結果のCAを重視した学校改善の実施（学校評価システムの再構築）
- キ 実態把握に基づく改善課題の明確化と改善
- ク 前年踏襲主義の打破による経験主義から結果主義への転換
- ケ 若手教師の人材育成（「だざいふ道場」の開講）
- コ 「大宰府中15の約束」達成に向けた取組指標、成果指標の具現化をめざす

<学校運営PDCAサイクル>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
てんじん様ロード	授業診断→改善		教師生徒評価			改善→授業診断→改善			教師生徒評価		計画		
思いやりロード	計画→実施		教師生徒評価			改善→計画→実施			教師生徒評価		計画		
チャレンジロード	年間を通して「計画→実施→点検→改善」をそのつど評価												
その他の事項	実施		教師生徒保護者評価			改善→実施			教師生徒保護者評価		計画		

学校教育目標：学習が輝く、心が輝く、自分が輝く生徒の育成

— 10年後の生徒の未来を見通した教育 —

福岡県学校教育振興プラン

コミュニティ・スクールの
推進と充実

太宰府市教育施策

(令和2年度)の経営目標：夢と感動をはぐくみ、社会に開かれ、社会を開く教育課程の創造

— 鍛えて、ほめて、伸ばす「鍛ほめ福岡メソッド」の実践 —

<教育課題>

- 授業改善を通じた**学力の向上**
- **不登校生徒、不登校傾向生徒**への対応
- 全校態勢での**特別支援教育**の充実

<経営課題>組織的協働体制の確立

- **カリキュラム・マネジメント**の確立と実践
- **組織運営体制**の確立 (BGの組織化)
- 若年教師の**人材育成**

本年度の重点目標

- 各種テスト結果で**太宰府市平均**を超える
- 不登校出現率を**5%以下**とする

本年度の経営の重点

- 『学校評価』を通じた**確実な学校改善**
- **BG (学年部統合)**の円滑な組織運営

【『とびうめロード』の推進を通して、社会に開かれた教育課程を創造します】

1：『てんじん様ロード』を推進し、新しい時代に必要となる資質・能力の向上を図り、学習が輝く生徒を育成します

What	How
戦略1：『太中メソッド』の定着をめざす (知識・技能) (思考力・判断力・表現力)	『めあて』『学びの見通し』『個別思考の場』『対話的な学び』『振り返り』を明確に位置づけた授業を全教師で実践する。
戦略2：『授業診断』を通し、授業改善を推進する	全教師が年間3回の『授業診断』を実施し、『ミニ授業整理会』を通して改善課題の明確化を図り授業改善を推進させる。
戦略3：『電子黒板』を活用した授業を全教師が年1回実施する	『電子黒板』を活用した授業実践を通して、授業のICT化への準備段階とする。
戦略4：各種テスト結果の公表と分析の場を位置づける	各種テスト結果(標準得点・地区内、市内での相対的順位)の公表と各教科での分析、目標設定の場をもつ。
戦略5：定期考査問題の改善を図り、思考力判断力、表現力の育成をめざす	定期考査問題に、 思考力、判断力、表現力 を問う問題を出題し、テスト結果から生徒の課題を明確にして授業改善に活かす。
戦略6：『朝学』の全校での実施 (知識・技能)	学習基盤となる 知識、技能の確実な習得 を目指した『朝学』を全校で実施する。
戦略7：『MICHIZANEノート』を活用して学びの振り返りや家庭学習の充実につなげる(自己管理能力)	毎日、帰りの会において『MICHIZANEノート』を記録し、 学習の振り返りや家庭学習の計画 を作成させる。
戦略8：学校、家庭、地域の共育により、『10daysTry』(家庭)、『とびうめ学習』(学校)『夜の公民館学習』(地域)を推進する	生徒の家庭学習の定着をめざし、定期考査前に『10daysTry』(家庭)、『とびうめ学習』(学校)、『夜の公民館学習』(地域)を実施し、放課後実施の『とびうめ学習』、『夜の公民館学習』は 地域の大学生を指導者として 招聘する。
戦略9：『単元テスト』の計画的な実施	各教科で授業における『レディネステスト』や『単元テスト』を実施し生徒の 学力評価 に生かす。

2：『思いやりロード』を推進し、自他を大切に思いやりの心を実践して、心が輝く生徒を育成します	
What	How
戦略1：年間を通して『SEL-8S』を実践し社会性の育成をめざす (人間関係形成・社会形成能力)	年間2回の自己評定を実施し、生徒の社会性の変容を把握するとともに年間8回程度のエクササイズを実施し、人間関係能力、社会的能力の向上をめざす。
戦略2：学級活動の時間の充実をめざす (人間関係形成・社会形成能力) (自己理解・自己管理能力)	自発的自治的な活動、キャリア教育を基盤にして、安心安全な学級、夢や目標をもって生きる生徒を育成する。また、事後の活動を重視し、『為すことによって学ぶ』学級活動をめざす。
戦略3：道徳の時間を改善し評価を実施する (人間関係形成・社会形成能力) (自己理解・自己管理能力)	自我関与を図る授業実践を図る。発問の工夫を行い、生徒が自己の問題として考え、議論に広がる学習をめざす。研道徳の授業診断を実施し指導力の向上をめざす。
戦略4：『帰りの会』の充実をめざす (人間関係形成・社会形成能力)	毎日実施される『帰りの会』を重視し、『伝達から交わりの場』『振り返りと評価の場』『明日への意欲高揚』の3つを実践する。
戦略5：教室環境整備を推進する (自己理解・自己管理能力)	年間を通じた計画的な学級掲示を行い、特別支援教育の視点を取り入れた構造化、視覚化された教室環境整備を行う。
戦略6：生徒会活動の充実 (人間関係形成・社会形成能力)	計画的に『思いやり』をテーマにした活動を展開し、『思いやり』の大切さを積極的に集会等で啓発する。
戦略7：地域貢献の充実 (人間関係形成・社会形成能力) (キャリアプランニング能力)	『お世話になった地域への恩返し』を合い言葉にして積極的な地域貢献活動を推進する。 ・夏祭り支援 ・クリーン作戦 ・リカバリー大作戦 ・天満宮行事 ・マンデー挨拶 『おもプロ』をさらに進化させ、ふるさと太宰府への愛情の涵養を図る
戦略8：学校行事の充実 (人間関係形成・社会形成能力)	直接体験を重視し、仲間と協力協働する学校行事への見直しを行います。また、行事後の事後の活動を実施し、日常生活につながる学校行事をめざす。
3：『チャレンジロード』を推進し、何事も最後まで逞しくやり抜く根性を育み、自分が輝く生徒を育成します	
What	How
戦略1：太宰府中『失敗学』の確立と実践 (自己理解・自己管理能力) (キャリアプランニング能力)	失敗を恐れず、何事にもチャレンジする生徒を育成するために、太宰府中『失敗学』として以下の活動を展開する。 ■毎月2回、『朝の失敗学講座』を開催し、全教師が担当して自己の失敗からの学びを伝える ■『全校道徳』を校長が担当し、『失敗』をテーマに生徒と共に考え議論を深める。
戦略2：生徒の体力向上 (課題対応能力)	体育科の授業改善を推進し、『目標設定—実践—評価』のサイクルを定着させ、自己の伸びを実感させます。 日常より『元気溢れる』授業実践を推進する。
戦略3：部活動の充実のための検討 (課題対応能力)	太宰府市部活動基本方針に基づき、部活動の効果的運営の在り方について検討する。(外部コーチの積極的招聘) 部活動休息日を、年間を通して計画的に位置づける。
戦略3：ドリカム講座の開講 (キャリアプランニング能力)	年間3回、外部講師を招聘し、夢や目標をもって生きることの大切さを伝え、生徒のキャリアプランニング能力の向上をめざします。
戦略4：MICHIZANE賞の制定 (自己理解・自己管理能力)	生徒の努力への評価、生徒の小さな成功への評価等幅広い分野からMICHIZANE賞を授与し自己有用感の高揚を図ります ・学力向上・学力の伸び・ユーマア・掃除大臣・思いやり・特別部門等8部門制定
戦略5：真冬の耐寒歩行 (人間関係形成・社会形成能力)	CS事業として、学校・家庭・地域が協働して実施します。全員で約20kmを歩行し、困難を乗り越える直接体験の場とします。
戦略6：表彰倍々大作戦 (思考力・判断力・表現力) (主体的に学ぶ態度)	教頭、主幹で各種コンクール案内を精査して、各教科での参加を積極的に働きかける。昨年度比表彰生徒の倍増をめざす。

太宰府中学校教職員三箇条

【理念】

生徒に信頼される教師の必須要件は言行一致

教師は常に生徒のモデルである

(服装、時間、提出物、研修等)

【実践】

「感動する授業」を実践する太宰府中教職員

授業への課題意識を高め、対話的な教え合い活動があり、学習をきちんと振り返る授業の追究

【協働】

チームで協働できる太宰府中教職員

「目的」「目標」を明確に共有する中から、具体的な「手段」がみえる。木を見て森を見ようとし
ない狭い視野を捨て、全体を見渡す広い度量をも
つべきである。